うたいぼん

# 謡本をよむ

## －はじめて能を楽しむ人のために－

講師

**能楽大倉流小鼓**
久田（ひさだ） 陽春子（やすこ）

**観世流シテ方**
寺澤（てらさわ） 幸祐（こうすけ）

能の台本を「謡本（うたいぼん）」といいます
秋の情景が美しい能、「小督（こごう）」の解説を聞き、謡本の一部を、みんなで声に出して読んでみましょう

城東区は能の祖、榎並猿楽の発祥の地です
地域ゆかりの伝統芸能にふれてみませんか？

日　時：平成 28 年 10 月 11 日(火)　14 時～15 時
場　所：城東図書館多目的室
定　員：当日先着 60 名　　入場無料


**大阪市立城東図書館**

〒536-0005 大阪市城東区中央 3-5-45
電話(06)6933-0350
大阪市立図書館ホームページ
http://www.oml.city.osaka.lg.jp
城東図書館のページはトップページ右側のリンクからご覧いただけます。

## 演目について

# 小督（こごう）

能の曲目。四番目物。五流現行曲。金春禅竹（こんぱるぜんちく）作。『平家物語』巻6の「小督事」によった現在能。

高倉天皇の寵愛をうけていた小督局は、中宮が上がらせた女で琴の上手だった。高倉天皇は帝平清盛を恐れて身を隠した小督の局のことを深く嘆かれる。勅使（ワキ）は弾正大弼仲国（だんじょうのだいひつなかくに）（シテ）にその捜索を命ずる。小督（ツレ）と侍女がわびしく住んでいる嵯峨野。宿の主が都の高貴な女性を泊めていることを語り、名月の夜とて琴を所望する。後シテは馬上の態で登場。「駒（こま）の段」とよばれる。月下の嵯峨野の描写が美しい。『想夫恋（そうぶれん）』の琴の音を聞きつけ、仲国は案内を請い、身分を明かそうとせぬ小督に天皇の嘆きを伝え、御書を渡す。玄宗と楊貴妃の悲恋を引いて、つらい小督の恋心が語られ、仲国は小督に宮中へ帰られるよう説得する。直接の返事を手にした仲国は、別れの宴にさわやかに舞う。平曲の筋を舞台化した能だが、辞去の前に仲国が杯を受けて舞を舞うというように仕立ててある。

参考文献：
「日本大百科全書（ニッポニカ）」
（JapanKnowledge http://japanknowledge.com(2016年8月27日確認)）
「新版 能・狂言事典」　平凡社

関連展示

写真集や謡本、能のポスターなど能楽に関連した展示をしています

タイトル：『-地域ゆかりの伝統芸能-能に親しむ』
日時：平成28年9月16日(金）から11月27日（日）まで
場所：城東図書館